

5万分の1地質図幅「福江」

河田清雄¹⁾・鎌田泰彦²⁾・松井和典¹⁾

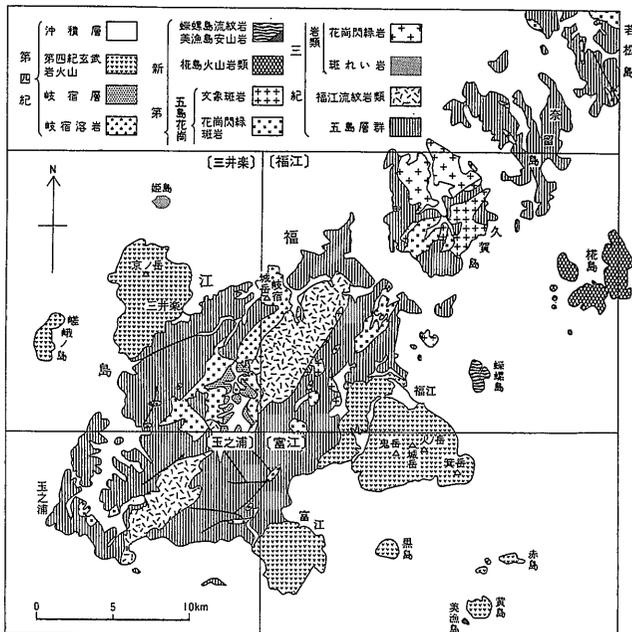
「西海の福江島は火山の島、アンジェラスの鐘が溶岩流に響く」

福江島は、東シナ海大陸棚の外縁部に浮かぶ五島列島南端の島で、地質図の区画としては「福江」「富江」「三井楽」「玉乃浦」の4枚の地質図に分けられます。福江地域は、福江島の北東部に位置します。なお、南東部の富江地域の地質図幅はすでに出版されています。福江地域北東部の堂崎の高台には五島カトリックの総本山ともいわれる重厚さを漂わす赤レンガ、ゴシック様式の天主堂が緑の入江に映えています。

おもな地質系統は、中新世の五島層群で砂岩と泥岩からなり、いくつかの層に緑色の火砕岩を挟んでいます。分布面積も広く、層厚は、1,000 m 以上と推定されます。しかし、化石に乏しいため地質年代については議論の余地があります。五島層群堆積末

期の中新世中期～後期に、福江島の中軸部に沿って活発な酸性火山活動が起こり、溶結凝灰岩や溶岩を流出させました。複利流紋岩類の活動は、五島層群の背斜軸部に生じたと推定される五島列島の伸長方向の構造線(大きな断層)が重要な役割を果たしたと考えられています。

酸性火山活動に引き続いて花崗岩の貫入活動があり、火山・深成複合岩体を形成しました。これはストック(岩株)・ラコリス(餅型の貫入岩)及び大小の岩脈として五島層群や福江流紋岩類中に貫入しています。福江島中央部の花崗岩類は、五島層群に対し著しい熱水変質を与え、葉ろう石を主体とする国内有数の高アルミナ鉱床を形成しました。また、北東部の奈留島の砂岩中に発達する石英脈には、脈の中にできた晶洞の中から日本式双晶をなす推奨の美晶が採集されます。東部の粧島は中新世のデイサイト



第1図 「福江」図幅の地質

1) 元所員
 2) 元長崎大学

キーワード: 福江, 五島列島, 五島層群, 福江流紋岩類, 長崎県



第2図 5万分の1地質図幅「福江」

で、炭酸塩鉱物・沸石の晶洞鉱物に富んでいます(第1図)。

福江流紋岩類・花崗岩類・粧島デイサイトのK-Ar放射年代値はおよそ1200万-1500万年を示し、これらから福江の火山活動は連続的だったと考えら

れます。第四紀火山活動も顕著で、環日本海新生代アルカリ岩石区に属し、アルカリ玄武岩からなる鬼岳・火岳などが美しい噴石地形を残しています。

(文責：加藤碩一)